

米株 SOX は 7 月「8 年連続陽線」、再現にらむ 月初安で月末高、期末と期明けや決算発表など焦点

(株) ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2024/6/28 (金)

米株市場での代表的なハイテク株指数・フィラデルフィア半導体株指数 (SOX) は 2016 年以降、7 月は月初値を月末値が上回る「月足陽線」が 8 年連続で観測されてきた。今年は昨年末からの急上昇や AI (人工知能) 関連株ブームに過熱警戒感があるほか、米 FRB の金融政策や米大統領選、各国政治情勢の行方などに不透明感があるものの、再現の余地が注目される。当座は暦年の半期や四半期の期末に伴うポートフォリオ調整等と 7 月からの期明け新規投資、7 月 12 日前後からの決算発表などが焦点になる。

暦年下期明けや 7-9 月期明け、資金流入余地

「7 月からの新たな四半期 (7-9 月期)、新たな暦年の下半期 (7-12 月期) は、米株市場に大量の資金が一気に流入する時期となる」、「パッシブな株式配分の資金が流れ込み、初夏にかけての持続的な株価上昇につながる」――。

米金融大手ゴールドマン・サックスのグローバル・マーケット部門は 6 月 5 日、顧客向けレポートでこのような見通しを示した (ブルームバーグが引用で紹介)。最近の季節要因として米株市場では、「個人投資家が 7 月に参加してくる傾向」もあるという。

その前段階として米株市場では 6 月後半以降、4-6 月の期末や暦年の上半期末といった要因もあり、期末対応のポートフォリオ・リバランスやヘッジ対応、一旦の利益・損失確定、ポジション整理などが観測され、株売り優勢の場面が見られている。

米株市場での代表的なハイテク株指数・フィラデルフィア半導体株指数 (SOX) は、6 月 20 日から反落に転換。期末のリバランスなどもあり、大きく上昇してきた AI (人工知能) 関連株が売りに押される一方、出遅れ銘柄などの押し目買い物色が観測されている。

その分だけ期末要因が一段落となったあとは、7 月からの期明けに伴う新規の資金配分が注目されそうだ。こうした季節的な米株の需給改善もあり、SOX は 2016 年以降、7 月は月初値を月末値が上回る「月足陽線」が 8 年連続で観測されてきた。今年も再現が注目されやすい。

今夏の場合、昨年末からの SOX 急上昇や AI 関連株ブームに過熱警戒感が残されているほか、米 FRB の金融政策や米大統領選、欧州など各国での政治リスク、地政学リスクの行方などに不透明感が漂っている。7 月の米株市場では、12 日前後から本格化する米国企業の 4-6 月期・決算発表も警戒されそうだ。それでも FRB の利上げ停止 (現状維持) と先行きの利下げ準備は維持されるほか、米国の内外でハイテ

クの業況は循環的な回復局面にあり、少なくとも 7 月の後半にかけては再上昇の余地がある。

SOX の昨年 2023 年 6-7 月の場合、今年 6 月と近い形で 6 月 16 日を高値に反落へと転じた。しかし、その後は 7 月 6 日が、結果論として 7 月の月間安値となる形で反発に移行。月間の高値をつけた 7 月 31 日まで株高が続くという、「月初安・月末高」が 7 月に観測されている。

その前の SOX 「7 月相場」でいえば、2022 年 7 月は 5 日に月間安値、29 日に月間高値を記録。以下、2021 年 7 月は 19 日が安値、30 日が高値、2020 年 7 月は 1 日が安値、30 日が高値、2019 年 7 月は 9 日が安値、24 日が高値、2018 年 7 月は 2 日が安値、27 日が高値、2017 年 7 月は 3 日が安値、27 日が高値――などとなっている。基本的には「月前半に安値、月後半に高値」というパターンが目立ってきた。

6 月末時点で前年末比大幅プラス、年末高を支援

しかも今年 7 月にこうした直近パターンが崩れたとしても、SOX には 12 月末にかけて「年末高」の可能性が残されている。米株 SOX では過去の長期実績として、年下期の 7-12 月に FRB の利上げが無い限り、「現状維持」や「利下げ」という政策対応の中では、12 月末値が 6 月末値を高確率で上回ってきた。

例えば昨年は 7 月を最後に利上げが休止となったが、SOX の同年 12 月末値は 6 月末値比 +13.7% の上昇となっている。2019 年には 7-12 月に利下げが 3 回実施されたが、12 月末値は 6 月末比で +26.8% の大幅プラスとなっていた。

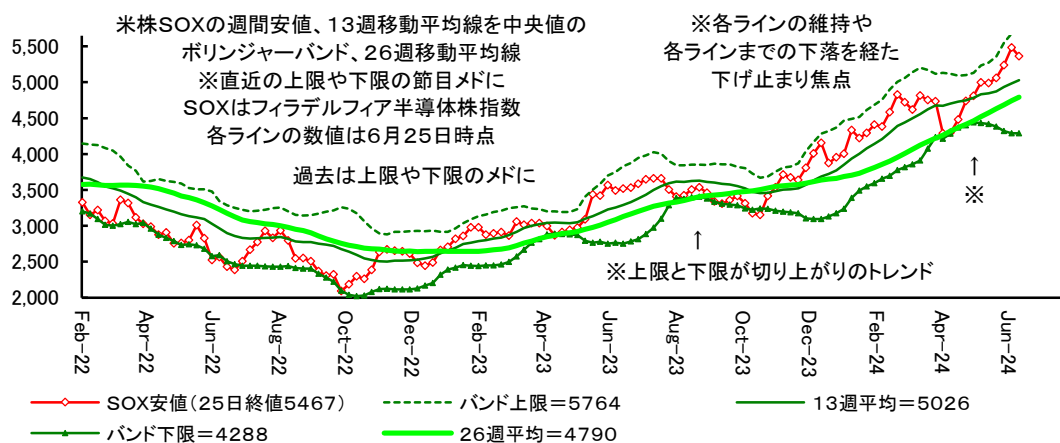
しかも今年の上半期の場合、SOX の年間成績は折り返しの 6 月時点で、昨年末比 +30.9% の大幅高となっている (6 月 25 日の終値時点)。過去に 6 月末の半年前比 (前年末比 = 2 四半期前比) が 2 桁プラスといった好成績の場合、慣性的な勢いのまま同年 12 月末には 6 月末比 (半年前比 = 2 四半期前比) でプラスとなる傾向が目立っている。その意味で今年の SOX は先行き上下動があっても、12 月末には 6 月の現状水準を上回る株高余地が無視できない。

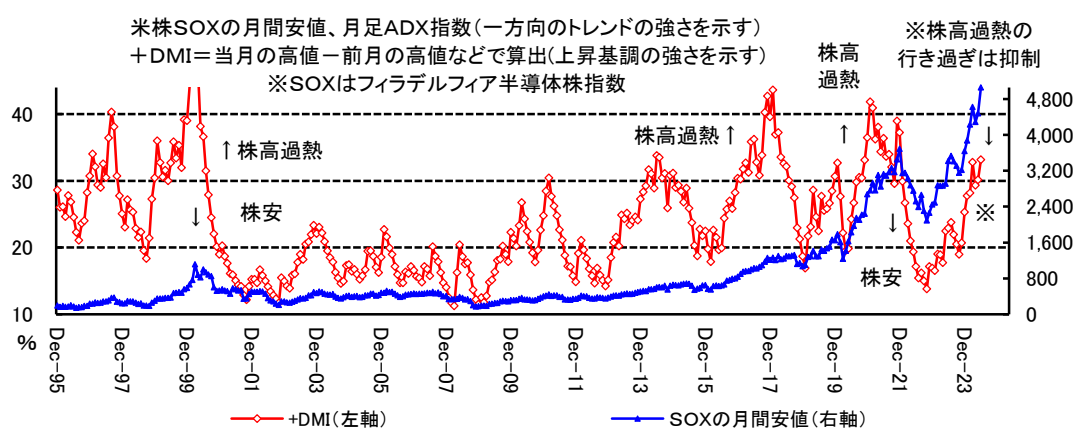
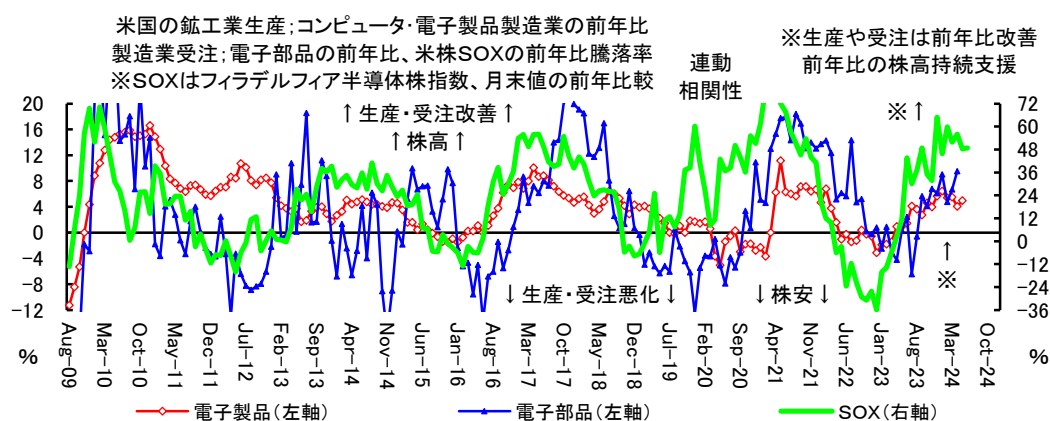
SOX が 6 月末時に年初来プラスとなった場合、12 月末に 6 月末比でプラスになるという傾向については、「買い遅れの投資家による押し目買い需要が増加していく」、「年上期の好成績で投資家のリスク許容度が改善するほか、年後半に株安があっても耐久力がある」、「米国では年末商戦に向けて景気が持ち上がりやすく、ハイテク関連でも新製品の開発・投入が増加する」――といった要因がある。

米国内外でのハイテク業況でいえば、SEMI (国際

現在の SOX については、スピード面や水準面で高
値過熱感が根強く警戒されている。それでもトレン

具体的に過熱行き過ぎが示唆された過去上限ゾーンとしては、2021年1月の41.8%、2018年1月の43.6%、2000年3月の58.5%(ITバブル崩壊の月)、その前に警報シグナルを発していた2000年1月の44.2%といった大幅な上昇ケースが見られている。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。